



成果指標					
成果指標					0
指標設定の考え方					0
区分年度	25年度	26年度	27年度	目標26年度	
目標	0	0	0	0	
実績	0	0	0	0	

自己評価				
自己評価 (担当責任者)	妥当性	目的の妥当性	5	B
		市民ニーズへの対応	4	
		市の関与の妥当性	4	
	有効性	事業の効果	3	C
		成果向上の可能性	3	
		施策への貢献度	3	
	効率性	手段の最適性	3	C
		コスト効率	3	
		受益者負担の適正	3	
課題認識	戸籍や住民基本台帳事務等は、市民の方の身分事項や居住の実態について定められた必要不可欠な事務で、今後も継続する必要がありますが、システムの導入や保守に多大な費用が必要であり、今回戸籍システムの機器更改を実施したが、様々な検討の結果、従来の業者での機器更改となったが、今後他の業務との共通性等を考え、費用の削減や職員の負担を軽減できる等のシステムの選定が必要と思われます。			

一次評価				
一次評価 (所属長)	妥当性	目的の妥当性	5	B
		市民ニーズへの対応	5	
		市の関与の妥当性	5	
	有効性	事業の効果	3	C
		成果向上の可能性	3	
		施策への貢献度	3	
	効率性	手段の最適性	3	B
		コスト効率	3	
		受益者負担の適正	5	
課題認識	戸籍住民基本台帳事務における成果指標は、この事務によりサービスを受けた市民の満足度で測られると思われるが、総合窓口を目指す本市としては、本市にふさわしい取り扱い業務の選択を行い、担当職員の仕事に対する理解を深める研修により、市民に不快感を感じさせない業務遂行に努めなければならない。			

二次評価	
二次評価 (所属部長)	一次評価結果のとおり事業継続と判断するが、以下の課題を新たに追加する。
意見、課題	新庁舎における「総合窓口」サービスの中心となるべき事務であり、システム構築を的確に推進する。

行政評価委員会の答申

外部評価  
(行政評価委員会)

経営者会議の最終判断

事業の方向性

下記の点を見直しの上、継続する。

意見、課題

二次評価の内容を踏まえ見直すこと。